

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 23 年度	学位名	修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名 曾根原 嵩
指導教員氏名 渡辺 真一郎			
報告書題目 看護行動の決定要因に関する研究 (多職種間ヘルスケアの決定要因)			
報告書概要 <p>本研究は、看護師個人が持つ性格といった心理学的要因と、「チーム医療」における看護師の協働行動との関係を明らかにすることで、「チーム医療」における効果的な看護師の人員配置に貢献することを目的とする。</p> <p>分析対象者は筑波大学付属病院に勤務する看護師 585 人であり、彼らにアンケート調査を行いそのデータを用いる。分析方法として、まず協働行動と性格特性間の相関係数を算出し結果を比較検討する。次に重回帰分析を行い、協働行動と説明変数である性格特性間の回帰係数を算出し結果を比較検討する。また被調査者の看護師のうち急性期病棟と亜急性期病棟に勤務する看護師を対象にそれぞれ相関分析と重回帰分析を行い、両者の間で結果に差異が生じるか調べる。</p> <p>尺度は「チーム医療」における適切な協働行動の指標として看護行動「多職種間ヘルスケア」を、看護師の性格特性を測る指標として Big-5 の「勤勉性」、「情緒安定性」、「協調性」を用いる。本論文における「多職種間ヘルスケア」の定義は「質の高い医療サービスを提供することを目的とし、異なる専門領域を持つ他職種の人々との間に良好なチームワークを築き、維持すること」である。</p> <p>分析の結果、全ての病棟の看護師を対象とした場合、「勤勉性」、「情緒安定性」、「協調性」は「多職種間ヘルスケア」と正の有意な相関関係にあることがわかった。しかしながら、これらのどの特性も「多職種間ヘルスケア」を説明する有意な独立変数ではなかった。この結果より「多職種間ヘルスケア」と性格特性との間に媒介変数の存在が示唆されるが、その媒介変数の追究は今後の課題として残される。また急性期病棟の看護師のみを対象とした分析においても、「多職種間ヘルスケア」と「協調性」との間に正の有意な相関がみられた。これは、一般的に高度救命救急医療が施行される急性期病棟においては、「協調性」を持つ看護師は円滑でスピーディーな処置を行うために有用な人材であるためだと思われる。一方リハビリテーション医療が主に行われる亜急性期病棟の看護師を対象とした場合ではそれらの変数間に有意な相関はみられなかった。</p>			
審査日	平成 24 年 1 月 25 日		
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 准教授	工学修士	大貫 裕二
副査	筑波大学 教授	Ph.D. in Organizational Behavior	渡辺 真一郎
副査	筑波大学 教授	博士(経済学)	吉田 あつし